

解答例の使い方

完成文の暗記ではなく、条件と伝わり方を確認

答えを写す前に、自分の文章と例の違いを見つけましょう。別の経験や立場でも、問いに答え、条件を満たして説明できていれば認められます。

各問の「確認基準」は、この教材の振り返り用です。自分・読み手・先生が、それぞれ「できた／一部できた／直したい」で見取り、次に直す点を一つ決めましょう。合計点や全国共通の合格基準を示すものではありません。

作文例は、問題と同じ20マス・9mmの原稿欄に配置しています。「使用マス数」は段落頭の空きや途中の改行後までの空きを含み、本文だけの文字数とは別に表示します。数え方は学習ポイントと問題の冒頭を確認してください。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問1 条件をチェック項目にする

解答例 立場があるか。冒頭や結論を読む。

理由と例が対応するか。本文を読む。

二段落・指定マス数か。段落とマスを数える。

考え方 「よい作文か」という曖昧な項目ではなく、実際に確認できる問いに直します。理由と具体例は、ただ存在するだけでなくつながっていることも見ます。

確認基準（この教材での目安）

- ・課題のすべての条件を含む。
- ・実際に判断できる項目になっている。
- ・内容と形式の両方を点検できる。

問2 資料の範囲を守って直す

解答例 「全校の生徒はみんな」が資料の範囲を超えている。「三年一組の回答者三十人のうち、十八人が水曜日の開室を希望している」と直せる。

考え方 対象は三年一組、希望者は十八人です。学級全員でも全校全員でもありません。数値の誤りを先に直すと、結論の見直しにもつながります。

確認基準（この教材での目安）

- ・全校・みんなという一般化を指摘している。
- ・三年一組三十人を対象としている。
- ・水曜日を希望する十八人と書いている。

基礎の解答例

問いに合う別の表現も認める

問3 つながりの切れた箇所を直す

解答例 そこで、連絡は端末でも配りつつ、通信できない場合に備えて、希望する人には紙でも渡すべきだ。

考え方 通信できない人がいるという理由に合う結論にします。読み手が賛成だからといって、書き手の立場を勝手に変える必要はありません。

別の答え方 紙での配布を続けながら、端末でも確認できるようにする案もよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 反対という立場を保っている。
- ・ 通信できない場合への対応がある。
- ・ 前の理由から結論が導かれている。

問4 重複と文体を整える

解答例 私は、掲示物の文字を大きくすべきだ考える。小さい文字では、離れた場所から内容を確かめにくいからだ。

考え方 一文目と三文目に同じ主張があるため、まとめられます。「思います」と「からだ」の混在も解消しています。単に短くするのではなく、必要な意味を残します。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 重複した主張を整理している。
- ・ 常体にそろえている。
- ・ 必要な理由が失われていない。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問5 役立つ友達コメントを書く

解答例 ①疑問を確かめ合えるという理由が明確です。

②「全員が集中できる」根拠はありますか。

③静かな席を離して確保してはどうですか。

考え方 肯定だけ、否定だけにせず、本文を指して質問し、改善案を提案しています。書き手の賛成という立場を尊重した助言です。

確認基準（この教材での目安）

- ・理由のよさを具体的に述べている。
- ・全員という断定の問題に気付いている。
- ・書き手の立場を保つ改善案である。

問6 助言を選ぶ理由を伝える

解答例 Bを採用する。想定例であることが分かり、理由も具体的になるからだ。Aは採用しない。全員に聞いていないのに「みんなが困っている」と書くと、事実として確かめていないことを断定してしまうからだ。

考え方 読みやすさを高める助言でも、根拠のない断定は避けます。助言者への賛否でなく、文章の目的と正確さに照らして判断します。

別の答え方 Bを短く言い換えて採用してもよい。Aの代わりに「困る人が出るおそれがある」とする案もよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・Aの根拠不足を指摘している。
- ・Bの例が仮定であることを捉えている。
- ・選択理由が文章の正確さや分かりやすさに基づく。

標準の解答例

問いに合う別の表現も認める

問7 直す順番とコメントを決める

解答例 根拠は結論に関わるので、例えばB、C、Aの順に直す。「調査の対象は一学級です。『全校』を対象に合う表現に直し、その根拠で結論を支えられるかも確かめませんか」と助言する。

考え方 B、C、Aは一例です。根拠の誤りと反対意見への応答不足は、文章の内容に関わる問題です。どちらを先に直すかは作業方法によって変えられます。別の順序でも理由が明確で、内容上の問題を見落とさずに直せるなら認められます。

別の答え方 Bから直す例：根拠が変わると結論も変わり得るため、まず調査の対象を正す。

別の答え方 Cから直す例：主張と反対意見への応答を整理して全文の構成を決め、次に調査の対象を正す。

別の答え方 別の順序でも、理由を説明し、BとCの内容上の問題を残さず直す計画であればよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・直す順番を理由とともに示し、内容上の問題にも対応している。
- ・助言に具体的な修正対象がある。
- ・理由と結論への影響を考えている。

問8 チェックして根拠を直す

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 195／本文の文字数 177（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	私	は	、	水	曜	日	の	放	課	後	に	図	書	室	を	開	く	こ	と	20
を	試	し	た	い	。	三	年	一	組	の	三	十	人	中	十	八	人	が	、	40
水	曜	日	の	利	用	を	希	望	し	て	い	る	か	ら	だ	。	希	望	が	60
多	い	日	に	開	け	ば	、	本	を	選	ぶ	機	会	を	増	や	せ	る	と	80
考	え	る	。																	100
	た	だ	し	、	一	学	級	の	希	望	だ	け	で	、	全	校	に	と	っ	120
て	最	適	な	曜	日	だ	と	は	言	え	な	い	。	ま	ず	他	学	年	に	140
も	希	望	を	聞	き	、	担	当	者	の	都	合	を	確	認	し	た	い	。	160
そ	の	上	で	一	か	月	試	し	、	利	用	人	数	と	負	担	を	振	り	180
返	っ	て	、	続	け	る	か	を	判	断	し	た	い	。						200

考え方 「全校のみんな」を調査の対象と数値に直しました。立場は保ちながら、即時の断定を試行と検証の提案にしています。「大賛成」かどうかより、条件と根拠の一致を点検します。

別の答え方 水曜日の開室を試すという立場を保ち、試行前に他学年の希望と担当者の都合を確かめ、試行後に利用状況を検討する展開でもよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・ 資料の対象と人数が正しい。
- ・ 相手の人格への決め付けがない。
- ・ 立場を保ちながら結論を慎重にしている。
- ・ 追加確認と試行が具体的である。

下書きの点検例（書き直す前の文章）

資料の範囲：要修正／一学級の結果を全校全員の希望に広げている。

相手への配慮：要修正／反対する人の動機を悪く決め付けている。

立場：残せる／水曜日の開室を提案する立場は、根拠や条件を整えれば成立する。

問9 助言を生かして全文を直す

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 191／本文の文字数 187（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	私	は	、	図	書	室	に	相	談	で	き	る	席	を	設	け	る	案	に	20
賛	成	だ	。	例	え	ば	、	調	べ	学	習	で	本	の	内	容	を	読	み	40
比	べ	る	と	き	、	友	達	と	疑	問	を	確	か	め	合	え	ば	、	理	60
解	を	深	め	る	手	が	か	り	が	得	ら	れ	る	か	ら	だ	。			80
	一	方	、	静	か	に	読	み	た	い	人	に	は	話	し	声	が	気	に	100
な	る	だ	ろ	う	。	そ	こ	で	、	相	談	席	を	離	れ	た	場	所	に	120
置	き	、	小	声	で	話	す	決	ま	り	を	作	っ	て	短	期	間	試	し	140
た	い	。	そ	れ	で	も	読	書	の	妨	げ	に	な	る	な	ら	、	別	室	160
の	利	用	を	検	討	す	る	。	利	用	す	る	人	の	声	を	聞	き	、	180
続	け	方	を	判	断	す	べ	き	だ	。										200

考え方 「便利」を具体的な学習場面にし、反対意見への対応を加えています。三つ目の助言は根拠のない断定になるので採用していません。文体も常体に統一しました。

別の答え方 時間帯を分けて相談を認める試行も、静かな時間を確保する条件があればよい。

確認基準（この教材での目安）

- ・賛成の立場を保っている。
- ・便利さが具体的な場面で示されている。
- ・静かさへの心配に対応している。
- ・根拠のない全員への一般化がない。

問10 自分と友達で仕上げる

応用 | 使用マス数 160～200マス

解答例 使用マス数 198／本文の文字数 179（段落頭の空き等を除く）

条件を満たす作文例

	私	は	、	学	級	の	連	絡	は	端	末	で	配	り	、	希	望	す	る	20
人	に	は	紙	も	渡	す	方	法	を	提	案	す	る	。	端	末	な	ら	過	40
去	の	連	絡	を	探	し	や	す	い	一	方	、	家	で	通	信	で	き	な	60
い	場	合	に	も	情	報	を	受	け	取	れ	る	よ	う	に	し	た	い	か	80
ら	だ	。																		100
	紙	を	残	す	と	配	布	の	手	間	が	か	か	る	と	い	う	心	配	120
は	あ	る	。	そ	こ	で	、	紙	の	希	望	者	を	確	認	し	、	必	要	140
な	分	だ	け	用	意	し	た	い	。	欠	席	者	に	も	連	絡	が	届	い	160
た	か	確	か	め	る	。	一	か	月	使	っ	た	後	に	困	っ	た	点	を	180
聞	き	、	情	報	が	行	き	渡	る	か	を	見	直	し	た	い	。			200

考え方 紙の手間という心配に応答し、欠席時と試行後の確認も考えています。ほかの提案も、設定に合う根拠と対応があれば認められます。チェック後のコメントは本文の具体的な箇所に結び付けます。

別の答え方 紙を基本にして端末を補助にする案も、探しやすいさと通信環境への配慮があればよい。

別の答え方 読み手コメント例：「必要な分だけ用意する」という対応が具体的です。欠席した人への確認は誰が行いますか。

確認基準（この教材での目安）

- ・全員に連絡を届ける目的がある。
- ・提案と理由がつながっている。
- ・心配への対応が具体的である。
- ・点検とコメントを踏まえて必要な修正をしている。